

科目名		建築構造演習			
担当教員		木原 隆明		実務授業の有無	有
対象学科	建築士学科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	授業形式	演習	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方		1年次から学んだ一般構造Ⅰ、一般構造Ⅱの総復習をする。 建築施工管理試験対策として小テスト等で確認しながら進める。 1. 鉄筋建造物の構造、工法の種類と地盤、基礎の重要性を身につける 2. 建築設計と関係が深いことを認識し、環境に適した各工法の基本をしっかりと身につける。			
学習目標 (到達目標)		1年次から学んだ一般構造Ⅰ、一般構造Ⅱの範囲を演習問題を解きながら内容の総復習をする。 到達目標は、2級建築施工管理試験の合格基準点に達していること。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		①やさしい一般構造、 ②やさしい建築施工、 ③要点テキスト2級建築施工管理技術士、 ④配布プリント等			
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	2級建築施工管理試験対策 - 1 ① 2級建築施工管理試験の躯体・仕上げ分野の過去問題			方法: 過去問題を繰り返し行い、問題の出題傾向と内容を説明し、解答、解説。理解度を確認 目標到達: 問題を理解し合格基準に達している	
2	2級建築士 学科試験対策 二級建築士学科試験の構造分野の過去問題			方法: 過去問題を繰り返し行い、問題の出題傾向と内容を説明し、解答、解説。理解度を確認 目標到達: 問題を理解し合格基準に達している	
3	小テスト			過去問題から出題し、自分が問題を理解しているか確認する。	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
平常点	授業姿勢	出席状況		1年次の基礎をしっかりと復習することで習熟度を上げる。 また小テストや過去問題の対策テストを行い習得状況の確認する。演習問題を、繰り返し行うことで重要なポイントをしっかりと理解させる。 習熟度を上げるために、正解率の低い回答については、十分な解説を行う	
80 %	10 %	10 %	%		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		建築施工管理技術者として15年、建築士として設計部門で15年、技術開発部門で15年勤務			